

# ふくしま 再生 短信

2020/11/22 < 学び舎 irori > 火入れ式

## ❖ 甦る希望の炎 ❖

2020年11月22日午前10時、福島県相馬郡飯舘村佐須に完成した<学び舎 irori>（施主：認定NPO法人ふくしま再生の会、運営主体：合同会社虎捕の郷）の火入れ式が山津見神社宮司代務者・加藤啓介さんを迎え厳かに行われた。火入れ式は建物が完成したときに未長い安全を祈願し行われる神事である。学び舎 iroriはこの日、南面のテラスに佐須小学校の建具設置が完了、晴天下美しい完成像を披露するに至った（写真1）。教室黒板前の囲炉裏の周りには佐須老人クラブのメンバーを始め、再生の会会員も多数参集（写真2）。お神酒として神前に供えられたのは佐須の酒米から誕生した「不死鳥の如く」と「復興」（写真3）。降神の儀に続きお神酒による清めと祓い（写真4）。そして愈々火入れの儀、火の神様から頂いた種火を施主代表・田尾陽一さん（ふくしま再生の会理事長）の手に

より囲炉裏へ、勢いよく着火（写真5）。玉串奉奠（たまぐしほうてん）＝参拝は、虎捕の郷代表社員・佐藤公一さん（佐須老人クラブ会長）、佐須老人クラブ前会長・菅野永徳さんほか。昇

神の儀をもって式は10時半恙無く完了。この後老人クラブを中心に永徳さんのお花畑で記念撮影（写真6）。公一さん「安全に長生きできるように施設を利用したいと思う」。健康・医療ケアチーム（チームリーダー・中町美佐子さん）は学び舎 iroriにおける活動再開に向け、火入れ式のサポート役を一貫して担いこの日を迎えた。プログラムのスタートは囲炉裏での内科医・相澤力さんの恒例の健康講話

（囲み記事）。風と土の家のロビーでは、足湯・爪切り・フットケアが和やかに行われた（写真7）。その間、式の参加者に地元野菜たっぷりの昼食が振舞われた（写真8）。中町さん「いい記憶あればこそ、手応えありました、コロナの最中ですが寄りたいなあという気持ちが伝わってきました」。午後2時、灯った温もりを抱きつつ一回家路に着いた。（文責&撮影・若林一平）



### 相澤ドクターの炉端講話 COVID-19

相澤ドクターの健康講話が新装なった炉端教室での初授業。



テーマは COVID-19 = 新型コロナウイルス感染症（SARS-

CoV-2感染症）。コロナウイルス SARS-CoV-2は最終的に血管系や腎臓、そして脳にも入り込むのでこれまでの風邪とは全く異なる。免疫力の弱い人ほど重症になりやすい。つまり感染は同じでも重症になる割合が違う。加えていまだ決定的な治療薬は見つかっていないしワクチン

も開発途上である。家庭でも換気・加湿の重要性を指摘。マスクの使用は飛沫感染対策の他に微量感染による免疫力の獲得、鼻腔・口腔の湿度の維持という重要な役割がある。健康的生活がDNA修復能力を高めるといふ、この日の大切な学び。